

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第71号(2011年1月31日)「中国市場動向2010年12月」



世界2位の経済大国

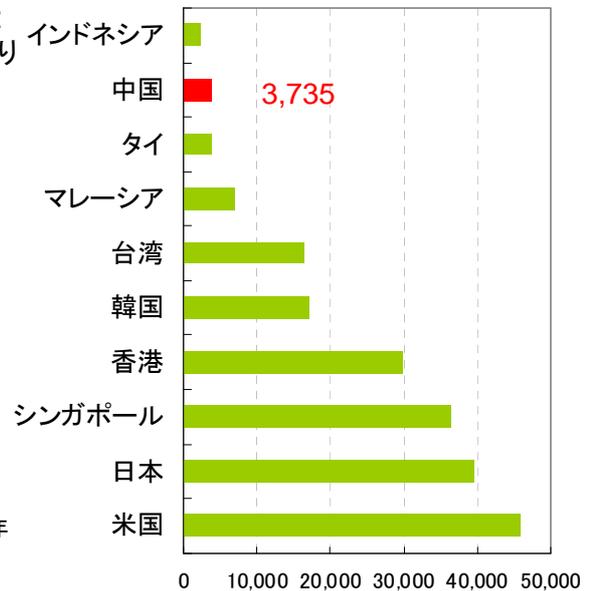
2011年1月20日、中国国家统计局が2010年中国の実質GDP成長率を発表しました。3年ぶりの2桁成長を達成し、前年比+10.3%となりました。GDPのドル換算が日本を抜き米国に次ぐ世界2位の経済大国となるのがほぼ確実です。「世界の工場」と言われる輸出依存型の成長から「巨大消費市場」としての内需主導型の成長へ変わろうとする中国、どこまで成長が続くのか、目を離せません。

世界2位の経済大国になったとはいえ、中国の一人当たりGDPが依然として低水準です。人口は日本の約10倍以上であるため、GDPの総額が日本を抜いたとしても一人当たりGDPが日本の約10分の1しか過ぎません。また、同じ発展途上国の中で、タイとマレーシアにもリードされ、国民全員が豊かになったとはとても言えない状況です。そして、足元ではインフレ懸念が広がり、不動産市況の過熱化、貧富の格差の拡大など、様々な経済課題が残っています。

同時に、上記の課題を克服し、内需主導型の成長モデルに切り替えることができれば、一人当たりGDPがまだまだ伸びる余地があるため、2010年のような2桁のGDP成長が今後も続く可能性があると考えております。

各国・地域の一人当たりGDP

(米ドル) (2009年)



出所: IMFのデータより、当社作成

中国のGDP成長率



出所: 中国国家统计局のデータより、当社作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



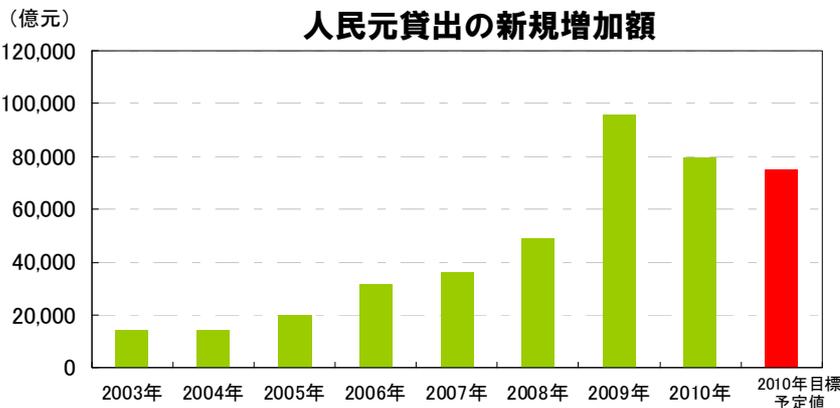
『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



人民元貸出

中国経済に大きいなインパクトを与える指標の一つとして、「人民元貸出の新規増加」を紹介します。2005年から経済成長に十分な資金を供給するため、人民元貸出が急速に拡大しました。そして、2009年金融危機の緊急対処として、約9.6兆元(約115兆円)にのぼり、ピークをつけました。2010年に前年比1.7兆元減少の7.9兆(約95兆円)となりましたが、政府が目標とした7.5兆元を超える結果となりました。2011年の目標値はまだ公表されていませんが、2010年よりやや下回ると予想されます。しかし、2011年1月第1週目だけで0.6兆元(約7兆円)が貸出されたと中国人民銀行が発表していますが、お金を借りたいというニーズがかなり強いようです。経済発展に影響を与えないように中国政府が利上げにきわめて慎重な姿勢を維持しているため、今後、人民元貸出の新規増加額が政府の金融方針を反映する一つ大きな指標になると考えております。



出所: 中国人民銀行のデータ
より、当社作成

《主要株価推移》(各市場の直近1年間)



出所: FACTSET

(編集後記) 2011年1月29日台湾の中時電子報は米エデルマン社が発表した調査結果によると、中国国民の政府への信頼度が世界一となっていると報道しました。その要因としては、世界中に打撃を与えた金融危機の影響を最小限に食い止めたこと、高い経済成長率の維持、一般民衆の生活レベルの改善などが挙げられています。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。